

2015年5月10日

～毎月10日は人権を考える日～

あなたと私

金子みすずの『私と小鳥と鈴と』の詩をよく見てみると、題名と本文の最終行のひとつ前の行にある私の位置が、逆転しているのにお気づきでしょう。

【鈴と、小鳥と、それから私】となっています。

この詩は、学校の授業でもよく取り上げられます。その時、【みんなちがって、みんないい】の部分に焦点を当て、一人一人の違いを大切にするとか、誰もがかけがえのない大切な存在であるかを考えさせる授業が多いように思われます。

ところが、私の位置が最後となっている【鈴と、小鳥と、それから私】は、自分の周りにあるすべての物や人と人とのつながりや絆の中にこそ自分があるという考え方ではないのでしょうか？

私という存在は、周りのあなたがいてこそその私であることを伝えていると思います。「私とあなた」でなく「あなたと私」という見方になって、初めて、【みんなちがって、みんないい】という言葉が成り立つのです。

自分を大切にする、自分の気持ちを自分の言葉で言える、自分に自信がもてる人間になることも重要ですが、周りの人々や社会との共生の中で成り立つことが、必要な要件であることがさらに重要だと思えます。

日頃から、「あなたと私」という見方を認識し、一人一人を大切にしていきたいものです。そして、インフォメーション（双方向の意思疎通）とコラボレーション（ともに知恵を出し合う協働）で、みんなが生きやすく、幸せな生活が送れるよう、知恵を出し合ひましょう。

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。
私がかからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あのなる鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

